

卒業論文

「学術研究都市」の形成による農村地域の変容
——M・K地区への九州大学移転を事例として——

2010年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2014年1月 提出

要約

本論文は、農村地域に大学を中心とする「学術研究都市」が形成されることについて、その過程を捉え、特徴や問題点を検討するものである。九州大学伊都新キャンパスが移転してきた M・K 地区を事例とし、住民への聞き取りを行うことによって「学術研究都市」形成の実情を捉え、行政が中心となって行われ、地域社会へ大きな影響を及ぼした地域開発の過程と、企業を中心とした企業城下町の形成過程との比較検討を行い、「学術研究都市」形成についての考察を行う。

第 1 章では、大学を中心とする「学術研究都市」の形成の特徴を捉えるため、大学以外の多大な影響力をもつ組織や計画が地域に入ってくる時、その地域にどのような影響が生まれるのか、あるいはどのように地域が再編されていくのかを見ていく。具体的には、先行研究として地域開発の過程と企業城下町形成の過程の 2 つを取り上げ、これらとの比較から見える「学術研究都市」形成における特徴を検討する。

第 2 章では、調査の概要を述べる。実際の「学術研究都市」形成の過程を捉えるため、M・K 地区の住民を対象とした聞き取り調査を行った。その意義や調査対象者、調査方法について記している。

第 3 章では、聞き取り調査の内容をまとめ、住民からみた「学術研究都市」形成の過程を記した。「学術研究都市」の中核である九州大学移転はどのような経緯で決まったのか、住民はどのような思いで大学を地域に受け入れたのか、そして現在どのようにまちづくりを行っているのかを M 地区、K 地区に分けてまとめている。

第 4 章では、第 1 章での先行研究の比較検討と第 3 章での聞き取り調査の内容を踏まえて、「学術研究都市」とその形成における問題点について考察し、今後の課題について述べて締めくくっている。

目次

はじめに.....	1
1 先行研究.....	1
1.1 地域開発の過程.....	2
1.2 企業城下町形成の過程.....	5
1.3 「学術研究都市」形成の検討.....	7
2 調査の概要.....	8
3 地域住民が語る「学術研究都市」の形成.....	10
3.1 九州大学移転の経緯.....	10
3.2 九州大学移転に対する意見.....	11
3.3 九州大学移転への期待.....	15
3.4 M・K地区のまちづくり.....	18
3.4.1 九州大学学術研究都市構想とマスタープラン.....	18
3.4.2 M地区のまちづくり ―Q町の誕生―.....	21
3.4.3 K地区のまちづくり.....	26
4 「学術研究都市」形成の問題点.....	30
4.1 「学術研究都市」形成における問題点.....	30
4.2 まとめと今後の「学術研究都市」.....	37
おわりに.....	38
[注].....	40
[文献].....	41